

教育行政の基本方針

はじめに、新年度に臨む教育行政の基本方針を申し上げます。

にかほ市教育委員会は、教育が「人格の完成を目指し、社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民を育成する」という教育基本法に則り、秋田県教育の指針にある「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を踏まえて、にかほ市教育大綱に示した施策を軸とした教育の充実・発展に努めております。

秋田県知事は年頭の記者会見で、新年の思いを漢字一文字で「超」と表現しました。「さまざまな思い込み、決めつけ、固定観念をみんなで超えていく1年にしたい」と述べています。

にかほ市教育委員会では、これまで「超にかほ一体」を合い言葉に、各地域の持っている教育資源を市全体で共有し、ふるさとを愛し、にかほ市を豊かにする人間の育成に取り組んで参りました。子どもたちの「ふるさと愛」の醸成は、大人の役目であり、その舵取りを教育委員会の使命と、強く自覚しております。

現在、世界情勢の急激な変化の中で、教育に関する既成概念や固定観念を突破する必要に迫られています。これまでの教育行政では、新たな価値や成果を得られない状況です。教育委員会は、令和8年度を人口減少社会はマイナスであるという固定観念から脱却し、教育効果を上げるための知恵を出し、工夫をしながら新しいチャレンジを進めていく年と位置づけます。

ここで基本となるのは、「生涯学習」すなわち、市民一人ひとりが生涯にわたり、霊峰鳥海の恵みを意識した学習者として、ふるさとの魅力を心に刻み、人口減少社会を逆手にとって、知恵と行動力を駆使して、たくましく生き抜く力の育成です。

令和8年度は、「超にかほ一体」に加え、丙午にあやかり、「情熱と行動力でチャレンジする」教育委員会でありたいと思います。市制21周年を迎え、最終年度となる「にかほ市教育大綱」を検証しながら、4年間積み上げてきた施

策の評価を通して、次期教育大綱の作成を進めて参ります。その際に「生涯にわたって学習し続ける市民にとっての適正な環境整備と教育内容の提供」を念頭に入れて考えて参ります。

学校教育においては、現在「スマイル&リスペクト」をキーワードに、教育実践を進めて参ります。教職員は、同僚や子どもたち、保護者を含めた他者に対して、また大人が子どもたちに対して「スマイル&リスペクト」を率先して意識する教育活動を展開しております。

令和8年度は、小学校における基礎学力向上の仕組みづくりを研究します。これまで各校では、校長先生をはじめとする教職員の取り組みによって一定の成果を得ております。しかし、個人の理解度や学習法の受容、家庭の協力等により、学力向上に格差が生じるケースもあります。そこで、この点を解決するために、教育研究所を中心に対応する仕組み作りを研究します。

また、グローバル化に対応するため、英語教育において大学の協力のもと、新たな学習方法やスキルを導入したり、英語学力向上のために、教員等の適正配置を工夫して参ります。

さらに、これまで実施してきたにかほ市独自の体験学習に加え、3地域で活動する「太鼓の文化」を各小学校に導入し、地域の方々と児童との交流を一層深め、生涯学習と学校教育の連携を進めます。ICTの推進では、全国に誇る、にかほ市デジタルアーカイブの積極的な活用をさらに推進します。

学校適正化については、令和10年4月の平沢小学校と院内小学校の統合小学校開校に向けた準備委員会、統合中学校の位置に関する選定委員会を開催し、それぞれ、エビデンスとなる客観的な数値や根拠を提示し、委員の俯瞰的な判断による適正化に向けて計画を進めて参ります。

私たちは、秋田県が抱える共通課題としての少子化による学校再編、高齢化による孤独や孤立、コミュニティの脆弱化等を、「超」を意識し、一人ひとりの個性を把握し、長所を伸ばすきめ細かな教育実現のチャンスと捉えます。

にかほ市教育委員会は、人口減少社会の教育行政を預かる「責任と覚悟」を改めて深く認識しております。

令和8年度は、施策のすべてにおいて、「適正化」をベースに置き、環境整備と教育内容を精査し、対象者の満足度や達成感、そして一人ひとりの笑顔を思い浮かべながら、地域に根ざし信頼される教育、未来を拓く教育を進めるために、全力で努力して参ります。

次に、「第2次にかほ市総合発展計画（後期基本計画）」に基づく主な施策について申し上げます。

● 「子育てしやすいまち」

○ 児童生徒の学力向上及びたくましい心と体の育成について

令和8年度の学校教育における大きな目標は、今年度に引き続き、予測困難なこれからの社会をたくましく生き抜くための力と確かな学力を育むことあります。この目標を実現するために、学校教育の充実に努めて参ります。

まず、学習においては、児童生徒が自分の疑問を解決し、「わかった!」「おもしろい!」と感じられるような授業を目指して参ります。具体的には、一つ一つの知識がつながり、学びの面白さを実感できるような授業を進め、学びに対する興味を引き出します。そして、児童生徒が周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想を生み出すことができる授業を展開いたします。また、見通しをもって粘り強く取り組む力を育むために、学習目標の設定と学びの振り返りを大切にいたします。児童生徒に学習の見通しをもたせ、その学びを自分で確認できるような時間を確保いたします。これらを通じて、児童生徒が自ら課題を見付け、解決する力を育て、学びを深めるとともに、達成感を得られる授業づくりを行って参ります。

次に、安心して学習に取り組むことができる学年・学級づくりにも力を入れ、児童生徒一人ひとりが自分の力を最大限に発揮できるよう支援して参ります。より良い学年・学級づくりのためには、児童生徒と教師、そして児童生徒同士の信頼関係と良好な人間関係の構築が不可欠であります。そのために楽しい学校生活を送るための定期的なアンケートや個別面談、Q-U検査などを活用し、学級づくりに役立てて参ります。また、児童生徒の理解を深めるための研修を実施し、学校全体で協力し合う環境づくりを進めて参ります。

さらに、一人ひとりの学びを支えるため、ICTの活用を推進します。「1人1台端末」を有効に活用し、用語検索や学習支援ソフト、協働学習支援ツールなどを活用することにより、児童生徒が自分の疑問を追究できるようにいたします。これにより、個別最適な学びを深めていくとともに、児童生徒の考えを可視化し、相互に話し合いながら学びを深めて参ります。

外国語教育においては、ALTや外国語活動支援員、教育指導員などを活用

するほか、関係機関の協力を得て外国語を学ぶ意欲の向上と外国語によるコミュニケーション能力を高めて参ります。理科教育では、児童生徒が夢中になって考え、解決しようとする姿勢を育てるために、実験や探究活動を中心に授業を進めるとともに、教職員向けの研修会も実施し、楽しく学べる理科の授業を推進して参ります。また、道徳教育の充実も重点に掲げ、児童生徒がより良い生活や人間関係を築き、自己の生き方について深く考えることができるよう取り組んで参ります。

○ 地域を活かした教育環境の充実について

本市の歴史や文化、防災教育、最新科学などを学ぶ「にかほ地域学」を中核としたふるさと教育を推進するとともに、鳥海山・飛島ジオパークと連携した自然遺産などを学ぶ「にかほジオ学」を継続して参ります。市内の教育施設や地域人材等を積極的に活用していくことで、ふるさとにかほのよさを実感し、ふるさとにかほを愛し、そして支えていく人材を育成して参ります。

小学校では鮭の稚魚放流と遡上見学の校外学習を継続するとともに、太鼓文化の体験を取り入れていきます。また、中学校においては、「にかほ市若者円卓会議」との連携や、地元企業との繋がりを重視した企業説明会の開催等を通して、働く人の願いや思いに触れ、実際に仕事を体験するなど、地域に根ざしたキャリア教育を進めていくほか、秋田大学との連携による、市内中学校を卒業した学生を講師として迎え、「夢に向かって努力する大切さ」について講演会を行います。

これらの事業を通して、将来の目標に繋がる進路選択ができるよう支援して参ります。

○ 新たな教育課題への対応について

不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒については、実態や特性に合わせて関係機関と連携し、適切な教育相談を推進して参ります。特に不登校児童生徒への対応として、にかほ市教育支援センター「ぱすてる」を中心に、学校、教育研究所不登校児童生徒対応教育指導員、こども家庭センターや児童家庭支援センター「こねくと」等と連携した相談体制を整えており、一人ひとりの心の不安を軽くし、心の居場所づくりや社会的自立を支援して参ります。

また、高度情報化社会の急速な進展に対応できる児童生徒を育成するため、

情報活用能力の向上と情報モラル教育の推進に努めて参ります。情報活用能力の育成においては、ICT支援員を配置し、研修や日常の授業支援を通じて、教員のICT活用能力の向上を図り、より効果的な活用を努めて参ります。情報モラル教育については、学校と家庭が連携し、人権や知的財産の尊重、危険回避、健康への配慮などを踏まえ、情報社会において適切に行動できる考え方や態度の育成を図って参ります。

さらに、プログラミング教育については、仁賀保高等学校や関係機関と連携し、本市で開催されているWRO公認秋田中央地区大会への積極的な参加を目指すなど、一層の充実を図って参ります。

●「人と文化が豊かなまち」

○ 生涯学習の推進と充実について

変化の激しい現代社会においては、共働き家庭の増加や核家族化の進展もあり、休日の過ごし方など生活様式の在り様や、個々人の価値感の変容が見られます。

このような中で、市民が心豊かに充実した人生を送れるよう、新たな知識や技術を学び習得する場の提供、その逆に、これまで培われた知恵や経験を披露、指導できる機会を設けるなど、魅力的な学習内容・講座の在り方を検討し、その充実を図ることで、市民の学習ニーズの多様化・高度化や、生活スタイルの変化を加味し、あらゆる世代の市民が生涯にわたって意欲を持って学び続けることができるような環境を整備して参ります。

各種講座等のPRには、広く、より多くの世代に情報を発信・提供するため、市広報やSNS、報道機関等の活用を更に充実させていきます。

また、誰もが自身の持つ個性や能力を最大限に発揮でき、どなたでも参加できる講座等の開催について関係機関との連携を深め、実施に向けた計画づくりに取り組んで参ります。

一人ひとりが地域の担い手となり、地域全体がウェルビーイングの高まりを目指し、引き続き、公民館や学校、家庭、地域が連携して、生涯の各期における学習の推進を実践して参ります。

○ 図書館の充実について

幅広い年齢層からの図書館利用に繋がるよう、図書の選定のみならず学習スペースの提供にて充実度を高めると同時に、レファレンスや調べ学習等への対応により、来館者数の増加を目指して参ります。

また、図書館を利用しにくい環境にある市民にも移動図書館などのサービスを提供することで、市民の皆様が情報の取得や芸術、文学を鑑賞するといった読書ができる機会を増やし、地域の文化的活動の底上げを図って参ります。

ブックスタート事業やお話会、映画鑑賞会など、未就学児と保護者が絵本に触れ合える機会の提供、小中学校の校外学習を通じた図書館活用情報の周知、学校図書館との連携強化、県立図書館をはじめとする県内公立図書館との相互貸出サービスの充実などにより、各世代に応じた読書活動の推進に努めて参ります。

○ フェライト子ども科学館の充実について

市内全小学校の3年生及び5年生を対象とした「移動科学実験教室」を引き続き実施いたします。この実験教室は、本市の特色ある理科教育事業として、3年生は磁石、5年生は電磁石を学習テーマに科学館で、あるいは科学館職員が小学校に出向いて行う特別授業となります。

このほか、科学館職員による実験工作の開催や、WRO事業等のプログラミング教育を含めた幅広い科学に関する学習機会の提供を継続して参ります。

○ 白瀬南極探検隊記念館の充実について

記念館と南極昭和基地をオンラインで結ぶイベントや市内小学校での「白瀬・南極出前授業」を引き続き開催いたします。

今年度の雪上車展示室リニューアルに合わせ、冒険家・阿部雅龍氏の足跡コーナーを新たに設けており、今後の誘客の目玉として周知・PRを図って参ります。

また、企画展では、第66次南極地域観測隊に同行した秋田魁新報社・大久保記者が撮影した写真展を開催いたします。あまり知られていない観測隊活動の様子や南極の壮大で美しい写真の数々を展示する計画としており、こうした取り組みにより、来館者の増加につなげて参ります。

○ 史跡・名勝・天然記念物の保護・管理について

国指定の天然記念物獅子ヶ鼻湿原については、保存活用計画を令和6年度に策定しており、令和8年度においては、活用計画の文化庁認定に向けた申請手続きを進めて参ります。また、継続している水質や蘚苔類などの環境モニタリング調査を引き続いて実施いたします。

○ 伝承芸能・年中行事の保存・継承について

にかほ市の5地区と由利本荘市の3地区で受け継がれてきた番楽が、文化庁文化審議会からの答申を受け、この3月に国指定重要無形民俗文化財に登録される見通しであります。

このことは、長年にわたり地域で大切に守り抜かれてきた各々の保存会の皆様の伝承・継承の強い意志と情熱、その努力が高く評価されたものであります。

先人たちが守り受け継いできた伝承芸能は、郷土愛を育み、世代間の交流を通じて、地域の絆を深めるとともに、地域コミュニティの高まりが期待できる重要なツールでもありますので、引き続き、獅子舞番楽保存協議会との緊密な連携の下、次の施策を推進して参ります。

一つは、後継者の育成として、市内小中学校や高等学校における「番楽体験授業」を継続し、若い世代への普及を図ります。

次に、鳥海山伝承芸能祭を開催し、広く市民や多くの方々にその価値を伝えるため、手厚い魅力の発信に取り組みます。

三つ目に、新たな国指定となる獅子舞番楽を含め、それぞれの団体が持続可能なものとなるよう、保存継承体制の充実に努めて参ります。